

URAWA REDS MEMBER 2024

浦和レッズ 2024シーズン プレーヤーズ名鑑



1 西川 周作 **GK**

①37 ②1986/6/18 ③183/81 ④大分

今年で38歳を迎えながら、いまだ成長途上にある不動の守護神。昨シーズンは7年ぶりのJ1ベストイレブンを受賞した。2022シーズンから就任したジョアンミットグコーチ、浦和GKチームとともに自己改革に取り組み、より万能のGKに進化。得意なロングキックは言うに及ばず、ハイボール対応も他の追随を許さない。



2 酒井 宏樹 **DF**

①33 ②1990/4/12 ③185/78 ④長野

浦和レッズのキャプテンであり、Jリーグを代表するサイドバック。怪我に悩まされるシーズンが続いていたが、昨年11月に手術に踏み切ったことでリフレッシュ。驚異的な回復で回復を遂げ、12月のFIFAクラブワールドカップにも出場した。圧倒的なパワーと推進力を誇り、何よりメンタルの強さはまさに「世界の酒井」と呼ばれるに相応しい。



3 伊藤 敦樹 **MF**

①25 ②1998/8/11 ③185/78 ④埼玉

プロ3年目の昨季は日本代表にも選出され、いよいよ浦和レッズの顔と言える存在になってきた浦和レッズ育成出身選手。ピッチを縦横無尽に駆け回り、守攻にパワーを発揮できる希少な大型ボランチで、新監督・新システムで迎える今季も重要な役割を担う。ピッチ中央やや右寄りから抜け出しでのアシスト&ゴール直前に期待がかかる。



4 石原 広教 **DF**

①24 ②1999/2/26 ③169/65 ④神奈川

右サイドを主戦場としつつ、左右両サイドでプレー可能な新加入のサイドバック。アカデミー時代から長年過ごした湘南ベルマーレを飛び出し、今季は浦和レッズで湘平とのポジション争いに挑む。2バックでプレーするイメージが強いが「上に行くには4バックもできないといけない。むしろサイドバックがやりたかった」と適応にも不安はない。



5 マリウス ホイブラーテン **DF**

①29 ②1995/1/23 ③184/77 ④ノルウェー

加入1年目の昨季はキャンプが終わってからの合流となったが、その能力からすぐにレギュラーに定着した。広範囲をカバーできるスピードと冷静な判断力で、湘平とともに関西の守備ラインを形成。そろってJ1ベストイレブンに選出された。パワーと空中戦の強さはショルツをも上回り、左足のロングフィードも魅力だ。



6 岩尾 憲 **MF**

①35 ②1988/4/18 ③175/65 ④群馬

昨季は公式戦53試合に出場というハードワークをこなし、すっかり浦和の中心選手となった大ベテランの司令塔。浦和レッズ加入3年目となる今季は同ポジションに新監督の教え子グスタフソンが加入したが「序は監督が決めることなので意識せず、自分ができるところに焦点をあてる」と泰然自若。持ち前の解像力で監督の要求に応えている。



7 安部 裕葵 **FW**

①25 ②1999/1/28 ③171/65 ④東京

昨季は4年ぶりの国内復帰を果たして浦和レッズに加入したが、怪我による長いブランクもあってなかなかコンディションが上がらず、出場機会がなかった。しかし、昨季終盤から徐々に調子を取り戻しており、今季は復活の予感。チーム内でも屈指のテクニクを誇り、特にキレのあるドリブルは必見。サイドでも中央でもプレー可能だ。



8 小泉 佳穂 **MF**

①27 ②1996/10/5 ③172/63 ④東京

加入3年目の昨季は負傷もあって一時フェードアウトするも、シーズン後半に復活。サイドで起用され、巧みな誘導と献身性で守備を支えた。今季の【4-3-3】システムにおけるインサイドハーフは過去に本人が語っていた逸話もあり、一層の存在感が期待される。組み立てを助ける顔出しと味方をフリーにするパスに注目。



9 ブライアン リンセン **FW**

①33 ②1990/10/8 ③170/64 ④オランダ

加入3シーズン目を迎えるストライカー。「(オランダ時代に所属した)フェイエノールトに似ている」と新スタイルを歓迎しており、ゴールラッシュに期待がかかる。加入直後の21年7月に負傷したこともあり、なかなか力を発揮できていないものの、昨季終盤は鬼気迫るパフォーマンスを発揮。今季は持ち味の高い決定力を見せてくれそうだ。



10 中島 翔哉 **MF**

①29 ②1994/8/23 ③164/64 ④東京

夏の補強の目玉として昨季途中に加入。6年ぶりのJリーグ復帰となったが、負傷もありリーグ戦先発は1試合に留まった。しかし、最終節の札幌戦で得点を挙げたように昨季終盤はパフォーマンスが向上。FIFAクラブワールドカップでチャンスを演出した。独特の柔らかなボールタッチは必見。



11 サミュエル グスタフソン **MF**

①29 ②1995/1/11 ③187/79 ④スウェーデン

マティアス監督とともにやってきた現役スウェーデン代表。中盤の底、アンカーポジションを本職とするMFで、技術と状況判断に優れる。前所属の経験から監督の戦術も熟知しており、チームの頭脳を司ることが期待される。後方でゲームメイクにとどまらず、ゴール前に進出してフィニッシュにも鋭い攻撃的なスタイルが持ち味。



12 チアゴ サンタナ **FW**

①31 ②1993/2/4 ③184/80 ④ブラジル

2022年のJ1得点王が浦和レッズに加入。高い得点力だけでなく、ここ数年の浦和に不足していた制空力をもたらしつつあるストライカーだ。利き足は左だが、右足でも強烈なシュートを放つ。左右両足に頭、近距離に遠距離と、どこからでもゴールを狙うことが可能で、アシスト能力も高い万能型だ。



13 渡邊 凌磨 **MF**

①27 ②1996/10/2 ③176/72 ④埼玉

プロ入り後も「浦和レッズ愛」を包み隠さず表現していた男が、怪我による長いブランクもあって復帰した。小泉、吉田とは前橋育英高校以来の再会となる。サイドの攻撃的な選手だが、両サイドに加えて中央、果てはサイドバックにも対応可能。インテリジェンスに優れ、どのポジションでも出場しても気の利いたプレーでチームを助けてくれる存在だ。



14 関根 貴大 **MF**

①28 ②1995/4/19 ③167/61 ④埼玉

かつての「ドリブラー」から脱却して、あらゆる局面で強度を発揮できるプレーヤーへと成熟した。海外で過ごしたシーズンを挟んで、今季は浦和レッズ10年目を迎える。クラブが変革を続ける中、魂を継承する貴重な生え抜き選手だ。複数のポジションでプレーでき、どんな状況にも対応する準備ができている。



16 牲川 歩見 **GK**

①29 ②1994/5/12 ③195/90 ④静岡

浦和レッズ2年目の昨季は、期待の公式戦スタメン出場を果たして実力を見せつけた。加入当初は頼りなみもあつたが、GKチームでトレーニングに励み大躍進を遂げた。体格もふた回り大きくなり、出場した試合では進化を続ける守護神・西川と遜色のないプレーを披露するなど、食いつく成長スピードを見せている。



17 オラ ソルバック **MF**

①25 ②1998/9/7 ③189/82 ④ノルウェー

ノルウェーからやってきた、ゴールもアシストもいける規格外のウイング。左右両サイドでプレー可能だが、「左足と右足が少しくらい違うので、右足がメインで、左足は少し変わってくるらしい。189cmの長身ながら抜群のスピードを誇り、その速さと長い手足を生かしたドリブルはちょっとやそつではめられない。



20 佐藤 瑠大 **DF**

①25 ②1998/9/10 ③183/77 ④福島

空中戦と対人守備に優れる、新加入のセンターバック。「攻撃が好きなので」と語るように縦パスの利点もあって、セットプレーも得意な選手だ。必ずスタメンを獲りたいが、その簡単にはかないので焦りすぎないことが大事。と自分を客観視するクレーバーさも持ち合わせている。



21 大久保 智明 **MF**

①25 ②1998/7/23 ③170/62 ④東京

昨季はJ1リーグ30試合に出場。献身的に守備をこなし、得意のドリブルでチームを助けた。低い位置からでもボールを選びチームを押し上げてくれる貴重な存在で、仕掛けるドリブルも兼ね、あとは本人も課題とするフィニッシュ局面が向上すれば、日本代表も見えてくる。



23 井上 黎生人 **DF**

①26 ②1997/3/9 ③180/77 ④長根

フィジカルも技術も申し分ない新加入のセンターバックは、苦勞的キャリアの持ち主。J3で6シーズン、J2で1シーズンを過ごしたのちにJ1へステップアップを果たした。今季は浦和レッズにたどり着いた。ショルツとマリウスの間は高い壁を越えるために来た」と貪欲な姿勢を崩さず、バックアップで終わるつもりはない。



24 松尾 佑介 **MF**

①26 ②1997/7/23 ③170/65 ④埼玉

2シーズンぶりに浦和レッズに帰還したアタッカー。22シーズンは本職のサイドハーフだけでなく、センターフォワードでも能力を発揮して公式戦2桁ゴールを記録した。「3トップのウイングでプレーするのははじめて」と本人は語るも、そのスピードと突破力はうってつけ。得点力アップの起爆剤として期待がかかる育成出身選手。

URAWA REDS MEMBER 2024

浦和レッズ 2024シーズン プレーヤーズ名鑑



25 安居 海渡 **MF**

①24 ②2000/2/9 ③174/69 ④埼玉

攻守万能タイプで、テクニカルなプレーだけでなく体を張ることも得意とするボランチ。プロ2年目の昨季は、本職ではないトップ下で奮闘し、主力と言っていた活躍を見せた。今季は大学時代に慣れ親しんだアンカーポジションだけでなく、一列前のインサイドハーフにもトライしており、中盤センターの全ポジションに対応可能だ。



27 エカニット パンヤ **MF**

①24 ②1999/10/21 ③168/68 ④タイ

昨季途中に加入した、タイ代表の俊英。今季は期限付き移籍期間を延長して、再び浦和レッズのユニフォームを身にまとう。機動力と技術を併せ持ち、ドリブルでボールを運べて密集でのターンやスルーパス、シュートも得意。2年目の今季は一層の飛躍が期待される。



28 アレクサンダー ショルトツ **DF**

①31 ②1992/10/24 ③189/84 ④デンマーク

浦和レッズの歴史はおろか、Jリーグ歴代でも屈指の傑出度と実力を誇る外国籍センターバック。的確な予測と判断に基づいたディフェンスで、ピンチを未然に防ぎ大ピンチもなんとかしてくれる。守備はもちろん、縦パスやドリブルなど攻撃面も優れたプレーヤーだ。彼を見るためだけでもスタジアムに足を運ぶ価値がある。



29 堀内 陽太 **MF**

①19 ②2004/7/8 ③171/66 ④埼玉

ファイタータイプながら攻撃参加にも鋭さを見せるボランチ。プロ1年目の昨季はわずかな出場機会に終わったが、池田伸康コーチとの個人練習などで着実にレベルアップ。「(浦和の)レベルの高さは外から見て想像していたとおりだったけど、まったく手の届かない位置ではない」と分析し、虎視眈々と出場機会を狙う。



30 興梠 慎三 **FW**

①37 ②1986/7/31 ③175/72 ④宮崎

浦和レッズに復帰した昨季は「いいパフォーマンスができるのは今年までかなと思う」と強い決意を語った中で、限られた出場時間の中リリーフ4ゴールをマーク、特にAFチャンピオンズリーグ2022決勝ではホーム・アウェイともゴールに絡む大きな仕事を果たした。国内屈指のストライカーであり浦和のエースは、唯一果たしていない目標、リーグ優勝に再び挑む。



31 吉田 舜 **GK**

①27 ②1996/11/28 ③185/83 ④埼玉

浦和レッズGKチームの中では最も新参だが、驚異的な成長を遂げている。昨季は3番手ながら、もともと鋭かった反射に安定感が加わった今季は「西川選手だけでなく、西川選手も超えるつもり」と虎視眈々。ビルドアップ能力はチーム内でも抜けており、プレッシャーを受けても動かない技術と度胸を合わせ持つ。



35 宇賀神 友弥 **MF**

①35 ②1988/3/23 ③172/71 ④埼玉

一度はチームを去ったレジェンドが、「まさかこういう形で帰ってくるとは」と本人も驚きの復帰。3シーズンぶりのJ1、そして浦和レッズでのプレーとなるが、「引退しに来たわけではない」と語ったとおり技術や戦術眼は健在。同ポジションのライバルにも積極的にアドバイスを送るなど、ピッチ内にとどまらないチーム貢献も期待できる。



38 前田 直輝 **FW**

①29 ②1994/11/17 ③177/72 ④埼玉

右サイドを主戦場とし海外でもプレー経験のあるドリブラーだが、実は浦和出身浦和育ち。小学生時代から東京ヴェルディの育成組織に所属するも「中学のマラソン大会は埼玉スタジアムで走り、成人式はさいたまスーパーアリーナだった」という。1対1の仕掛けが最大の魅力だが、味方を生かすコンビネーションにも優れる。



47 武田 英寿 **MF**

①22 ②2001/9/15 ③178/68 ④宮城

2年半の武者修行を経て、「自分でも、このタイミングで戻ると思っていた」とこころにクラブから帰還オファー。期待のレフティが、満を持して再び赤いユニフォームに袖を通すことになった。得意ポジションの右インサイドハーフは激戦区だが、正確な左足を武器にチャンスを開く。セットプレーのキックは特に注目すべし。



66 大畑 歩夢 **DF**

①22 ②2001/4/27 ③168/65 ④福岡

技術と推進力に秀でた左サイドバック。加入2年目の昨シーズンはリーグ戦先発出場は4試合にとどまったが、今季は同ポジションのライバル2人が海外へと旅立ち、かかる期待も大きい。パリ五輪世代として、U-23日本代表でサバイバルするためにも結果を残したいシーズンになる。

①年齢 (2024年2月23日時点) ②生年月日 ③身長/体重 ④出身地 **NEW** 新加入



URAWA REDS